

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2)

—小泉首相再訪朝に関する報道と荷重分析—

木村洋二・板村英典・池信敬子

A "Semio-graphic" Analysis of Headlines Reporting the Abduction("Rachi") Story (2):

Revisit of Prime Minister Koizumi to North Korea on 22nd May 2004

Yohji G. KIMURA, Hidenori ITAMURA and Keiko IKENOBU

Abstract

No information is transmitted without choice and emphasis. In newspapers, the scale of a headline itself implicitly expresses the "news-weight" (=value) of an event. The graphic expression of news-weights was used to analyze headlines reporting Koizumi's revisit to DPRK on 22nd, May 2004. All the headlines (5.14~5.25, 2004) in the major Japanese newspapers (Asahi, Sankei, Mainichi, Yomiuri) reporting the abduction of 15 Japanese citizens by DPRK were analyzed. The frequency and the scale of the word Abduction (Rachi) were mapped on Semio-graphs, as presented in a previous article. At the same time, the issues of nuclear weapons and "the problem of pension un-admission of Prime Minister Koizumi" were analyzed. Some differences among the newspapers were shown in terms of putting weights either on the abduction or on these other issues through analysis of the headlines and the photos.

Key words: abduction, North Korea, semio-weight, headline, newspaper, content-analysis, public opinion, agenda

抄 録

報道には必ず選択と強調が伴う。特に、新聞メディアは「見出し」の大きさなどいわば言外の表現方法によって、無意識裡のうちにデキゴトの強度や重要性つまり荷重を読者に伝達する。2002年9月17日小泉首相の訪朝に際して金正日総書記は15人の日本人を北朝鮮の国家機関が拉致したことを認めて謝罪した。この「日本人拉致」問題を日本を代表する4大紙がどのように報じたか、われわれは、その記事見出しに注目して荷重報道の実態を分析してきた。今回対象とするのは、小泉首相が2回目の訪朝を行った2004年5月22日をはさむ14日から25日までの12日間である。前回と同じく、見出しにおける「拉致」の文字の大きさ(面積)と、出現頻度を日にちごとに測定し、時系列の変化を見るためのセミオグラフを作成した。同時期、「核」兵器の開発問題と、小泉首相の「年金未加入」問題が争点となった。見出しや写真の扱い方を比較分析することで、「拉致」問題とこれらのイッシュウの間に、新聞によってかなり異なった荷重傾向が存在したことが明らかになった。

キーワード: 荷重、拉致、再訪朝、見出し、報道、情報、メディア、北朝鮮、世論、核、議題設定、新聞

はじめに

2002年9月17日、平壤で開催された日朝首脳会談において、金正日総書記が「北朝鮮による日本人拉致」を認め謝罪した。同年10月15日、拉致被害者5人は日本に永住帰国を果たしたが、彼らの家族は北朝鮮に残された。2004年5月14日の夕刊各紙は、小泉首相が北朝鮮を再び訪問することを報じた。再訪朝の主な目的は、残された家族の帰国と、いまだ行方不明10人の日本人の再調査を北朝鮮側に求めることであると報道された¹⁾。

本稿は小泉首相再訪朝を報じた4大新聞の荷重報道を比較・分析する。まず、再訪朝に関して、各新聞社が「拉致」問題をどのように重みづけたかに注目する²⁾。再訪朝の発表とほぼ同時期に、小泉首相の「年金未加入問題」が大きく報道された。各紙が小泉首相の「再訪朝」と「年金問題」という2つの拮抗するトピックのどちらを優先的に取り上げたかもあわせて検討する。

I 分析の概要

1.1 対象と方法

2004年5月14日から5月25日までに報道された「小泉首相の再訪朝」に関する朝日新聞・産経新聞・毎日新聞・読売新聞（(A)朝日・(S)産経・(M)毎日・(Y)読売とする）の朝・夕刊のすべての記事の見出しを分析対象とした³⁾。

この基礎データを元に、前回（木村他 2004）と同様①全見出しの本数（総本数）、②「拉致」という文字の頻度、③「拉致」の文字面積をそれぞれ計測する⁴⁾。

①「総本数」、②「拉致」の出現頻度、③「拉致」の面積の各データを一覧表示したものが、以下の表1.1である。

-
- 1) 5月22日、政府専用機で北朝鮮・平壤に到着した小泉首相は金正日総書記と再び会談し、拉致被害者5人の家族8人のうち、蓮池さん夫妻と地村さん夫妻の子ども計5人を帰国させることで合意した。そして同じ日の夜、彼ら5人は小泉首相とともに帰国し、日本で待つ被害者家族と再会を果たした。
 - 2) 2002年9月17日に判明した「北朝鮮による日本人拉致事件」をめぐる新聞報道については、木村・板村・池信2004で詳細に分析している。
 - 3) 記事選択の基準となった見出し中のワードは、(再)訪朝、拉致、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）、「北」、日朝首脳会談、国交交渉、(日朝)正常化、日朝平壤宣言、日テレ同行拒否、万景峰号、入港禁止法案、よど号、拉致被害者およびその家族の氏名、不明10人、帰国、金正日（総書記）、核、ミサイル、六カ国（六者）協議、人道（食糧）支援、家族会、拉致議連、救う会、在日韓国朝鮮人、である。
 - 4) 巻末に資料として「見出し一覧」と「拉致」および「核」の文字面積のデータを添付した。

表 1.1 各紙別見出しデータ一覧

日付	(A) 朝日			(S) 産経			M 毎日			(Y) 読売		
	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」 面積 (cm ²)	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」 面積 (cm ²)	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」 面積 (cm ²)	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」 面積 (cm ²)
5.14	13	3	14.29	15	3	14.81	12	2	8.88	11	3	13.98
5.15	56	3	5.19	85	8	29.41	42	3	15.24	75	5	28.74
5.16	31	1	1.8	33	3	8.15	13	0	0.00	25	1	1.9
5.17	15	1	2.31	25	3	3.3	27	3	1.65	25	3	2.44
5.18	12	0	0.00	29	1	0.64	20	1	0.72	19	1	1.36
5.19	25	3	5.74	20	1	1.76	22	0	0.00	30	4	2.58
5.20	30	2	1.48	32	3	3.59	29	2	0.5	28	4	2.54
5.21	25	4	2.92	42	6	7.82	44	5	4.08	51	9	18.68
5.22	92	6	11.16	65	4	3.55	76	5	6.66	84	6	45.83
5.23	110	5	6.78	140	7	2.84	118	5	6.5	171	10	23.38
5.24	53	0	0.00	83	3	18.28	92	3	3.56	87	5	8.57
5.25	62	4	7.5	75	6	6.65	71	1	16.32	89	8	10.88
計	524	32	59.17	644	48	100.8	566	30	64.11	695	59	160.88

1.2 「再訪朝」関連見出しの総本数

「再訪朝」に関連する各紙の見出しの総本数は以下の通りである(表1.2)。

表 1.2 「再訪朝」関連見出しの総本数

	本数
(A) 朝日	524
(S) 産経	644
M 毎日	566
(Y) 読売	695

各紙の見出しの総本数を比較すると、(Y)読売がもっとも多く見出し(695本)を用いて「小泉再訪朝」を報じていた。逆に、(A)朝日は524本ともっとも少なかった。

1.3 「拉致」の出現回数と面積

以下の図1.1は、期間中の各紙の見出しにあらわれた「拉致」という語句の出現回数と文字面積のそれぞれを計測し、それらの値を合成してひとつのグラフにまとめたものである。図中の黒丸(●)は対象期間中における各紙の「拉致」の出現回数の総数をあらわ

し、棒グラフは見出しにおける「拉致」の文字面積を合計したものである。

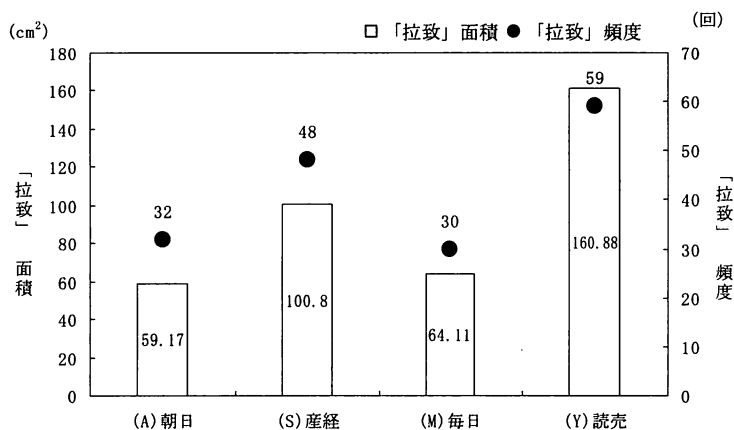


図1.1 「拉致」の頻度と面積の合成グラフ

図1.1のグラフからは、「再訪朝」関連の報道の中で、(Y)読売がもっとも多くの「拉致」(59回)と面積を割いて(160.88 cm²)、「拉致」報道をしていたことがわかる。(Y)読売は期間中、「拉致」を何度も取り上げ、またその「声」も大きかったといえる。

(Y)読売に次いで、(S)産経が「拉致」の頻度が多く、面積も大きかった。「拉致」の出現回数をもっとも少なかったのは(M)毎日(30回)だったが、面積については(A)朝日より若干多かった(64.11 cm²)。(A)朝日は4紙の中で「拉致」頻度が32回と3番目だったが、面積は最も小さく、全体として「声」が小さかったといえるだろう。

1.4 時系列「荷重グラフ」による分析

見出しから得られた「見出しの本数」、「『拉致』の頻度」、「『拉致』の文字面積」のそれぞれの荷重値を時系列にプロットして表示する。また、図1.2～1.4では、各新聞社を色別に同一平面上に示している((A)朝日：赤、(S)産経：橙、(M)毎日：青、(Y)読売：緑)。

得られた荷重値を時系列に配列して作成されたグラフを、「時系列荷重グラフ」(Diachronic Semio-Graphs of News-weights)、略して「荷重グラフ」とよぶ。作成された3つの荷重グラフを用いて、期間中における各紙の報道の特徴を分析する。

A. 「再訪朝」関連見出しの本数の推移(図1.2)

図1.2は、「再訪朝」に関する記事の見出しをカウントし、その日ごとの本数の合計値を時系列上にプロットしたものである。縦軸は見出しの本数をあらわし、横軸は対象期間(2004.5.14~5.25)を示している。このグラフからは、各紙がどれほどの見出しを用いて「再訪朝」を報道していたかを読み取ることができる。

B. 「拉致」頻度の推移(図1.3)

図1.3は、「再訪朝」をめぐる新聞報道の中で、見出しにあらわれた「拉致」という語句の出現頻度を計測し、得られた値を折れ線グラフに表示したものである。図1.3は、「再訪朝」の記事見出しの中で、各紙が「拉致」に何度言及したかを示している。

C. 「拉致」面積の推移(図1.4)

図1.4は、見出しにあらわれた「拉致」という語句の文字面積を計測し、その値をその日ごとに合計し、時系列の棒グラフにあらわしたものである。見出しにおける文字面積の大きさは、会話における「声」の大きさに相当すると考えられ、このグラフからは各紙がどれほどの「声」の大きさで「拉致」と叫んだかを観察することができる。

1.5 考察

A. 関連見出しの本数の推移(図1.2)

図1.2のグラフでは、折れ線の盛り上がりは2つ(5.15と5.23)あることがわかる。折れ線のピークは、各紙の報道量の集中をあらわしている。1つ目の5月15日は前日の再訪朝発表を受けて報道量が増加しており、2つ目の5月23日は家族5人が帰国したことを受けて、各紙の報道が集中している。

このように図1.2からは、各紙の拉致報道の集中度(過熱度)をグラフ上の折れ線の盛り上がりとして視認することができる。

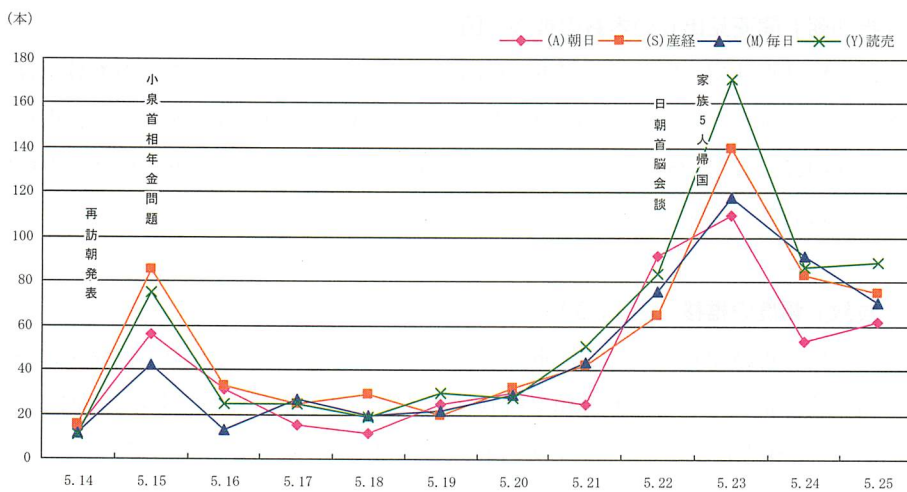


図 1.2 「再訪朝」関連見出しの本数の推移

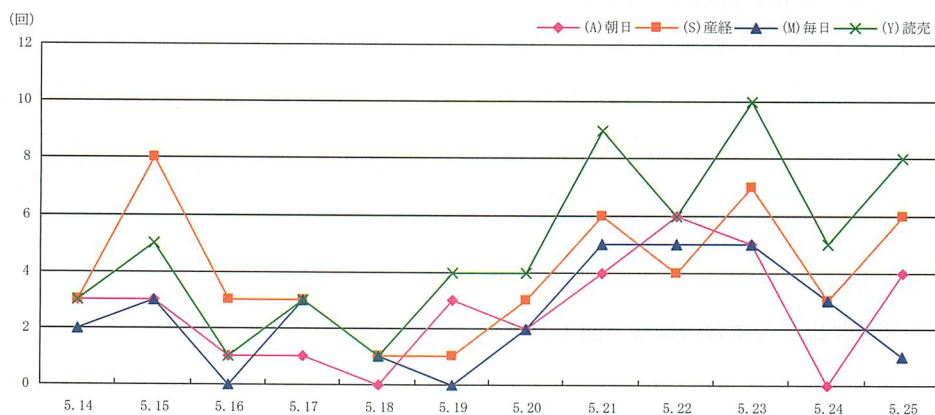


図 1.3 「拉致」の出現頻度の推移

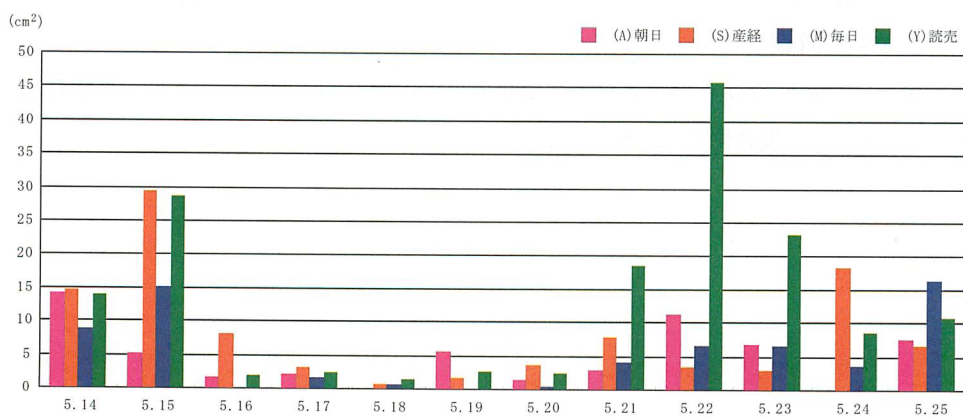


図 1.4 「拉致」面積の推移

B. 「拉致」頻度の推移 (図1.3)

各紙の「拉致」の頻度のグラフからは、以下のことがわかる。

b-1. (A)朝日と(M)毎日の「沈黙」

(A)朝日と(M)毎日は期間中、それぞれ2回の「沈黙」(グラフ上における値が0)があった。(A)朝日は5月18日と24日、(M)毎日は5月16日と19日である。これは、(A)朝日と(M)毎日は「再訪朝」についての報道をする中で、一回も「拉致」を取り上げていない日が2日ずつあったことをあらわしている。

特に、(M)毎日は、16日に「拉致」の値がゼロとなっている。つまり再訪朝を大きく取り上げた翌日に(M)毎日は「拉致」をイシューとして提示せず、その限りで抑止したといえる。

また、5人が帰国した翌日の24日に、「拉致」という語句を見出しに用いた報道を一切しなかったのは(A)朝日だけであった。

b-2. (S)産経と(Y)読売の「提言」

(A)朝日と(M)毎日とは対照的に、(S)産経と(Y)読売はグラフ上において、数値が0になった日はない。このことから、期間中において(S)産経と(Y)読売は「拉致」について必ず1回は見出し中で触れていたことがわかる。

b-3. (S)産経の「アジェンダ・セッティング」

(S)産経は訪朝発表翌日の15日と16日の2日間にわたって、「拉致」を話題として何度も提示し、再訪朝において「拉致」が問題であることを伝えていた。

b-4. (Y)読売の「呼びかけ」

(Y)読売は、小泉首相が再訪朝する5月22日と直前の21日に、「拉致」を多く取り上げ議題として設定していた。全体としても、(Y)読売の「拉致」頻度の多さが目立っている((A)朝日、(M)毎日の約2倍)。

C. 「拉致」面積の推移 (図1.4)

「拉致」の面積を計測すると、期間中において以下の5つの特徴が見られた。

c-1. (Y)読売の「大声」

(Y)読売は、5月21日～23日の3日間、他紙に比べて「拉致」の面積が圧倒的に大きかった。特に5月22日には、(Y)読売の棒グラフが突出しており、この日の(Y)読売は非常に大きな「声」で「拉致」(!)と叫んだことがわかる。グラフから明らかなように、この日の(Y)読売の「拉致」の面積(字の大きさ)は、分析期間中最大のものである(45.83 cm²)。

なお、22日における(A)朝日と(Y)読売の「拉致」の頻度はともに6回で同じであるが、面積に非常に大きな違いがあった((A)朝日 11.16 cm^2 で(Y)読売の $1/4$)。(Y)読売は、(A)朝日に比べて1回あたりの「拉致」の叫び声が大きかったといえるだろう。

c-2. (S)産経と(Y)読売の「大声」

5月15日は、(S)産経と(Y)読売の棒グラフの突出が顕著である。ともにほぼ同じくらいの面積だが、(S)産経と(Y)読売の「拉致」頻度は、(S)産経が8回、(Y)読売は5回であり、(Y)読売の方が1回あたりの「拉致」の文字が大きかったことがわかる。

c-3. (A)朝日の「小声」

訪朝が発表された翌日の5月15日、(S)産経・(M)毎日・(Y)読売の3紙は、前日よりもさらに大きな「声」で「拉致」を伝えたが、(A)朝日だけは前日よりも「拉致」の「声」を小さく下げて伝えていた(他紙の $1/4 \sim 1/2$)。

c-4. (S)産経の「確認」

(S)産経は、家族5人が帰国した翌日の24日に、大きな面積を使って「拉致」を報道した(18.28 cm^2 で(M)毎日の5倍、(Y)読売の2倍)。これは、(A)朝日の頻度・面積ゼロとは対照的である。(A)朝日はその限りで、この日「拉致」問題について沈黙した、と言える。

c-5. (M)毎日の「追い上げ」

(M)毎日は5月25日に棒グラフの突出が見られる。この日の(M)毎日は「拉致」を1回使用しているのみであるが、その「声」の大きさは他紙よりも大きいものであった(16.32 cm^2)。(M)毎日の後追い傾向(前稿)がここにも現われている。

「拉致」の頻度と同様に、面積荷重の比較においても、全体的に(Y)読売の面積の大きさは他を圧倒している。

1.6 各紙の特徴

次の図1.5は各紙の「拉致」の頻度荷重と面積荷重を時系列に合成したグラフである。このグラフから、今回の「再訪朝」において各紙が「拉致」をどれくらいの頻度と面積を用いて報じたかを比較する。

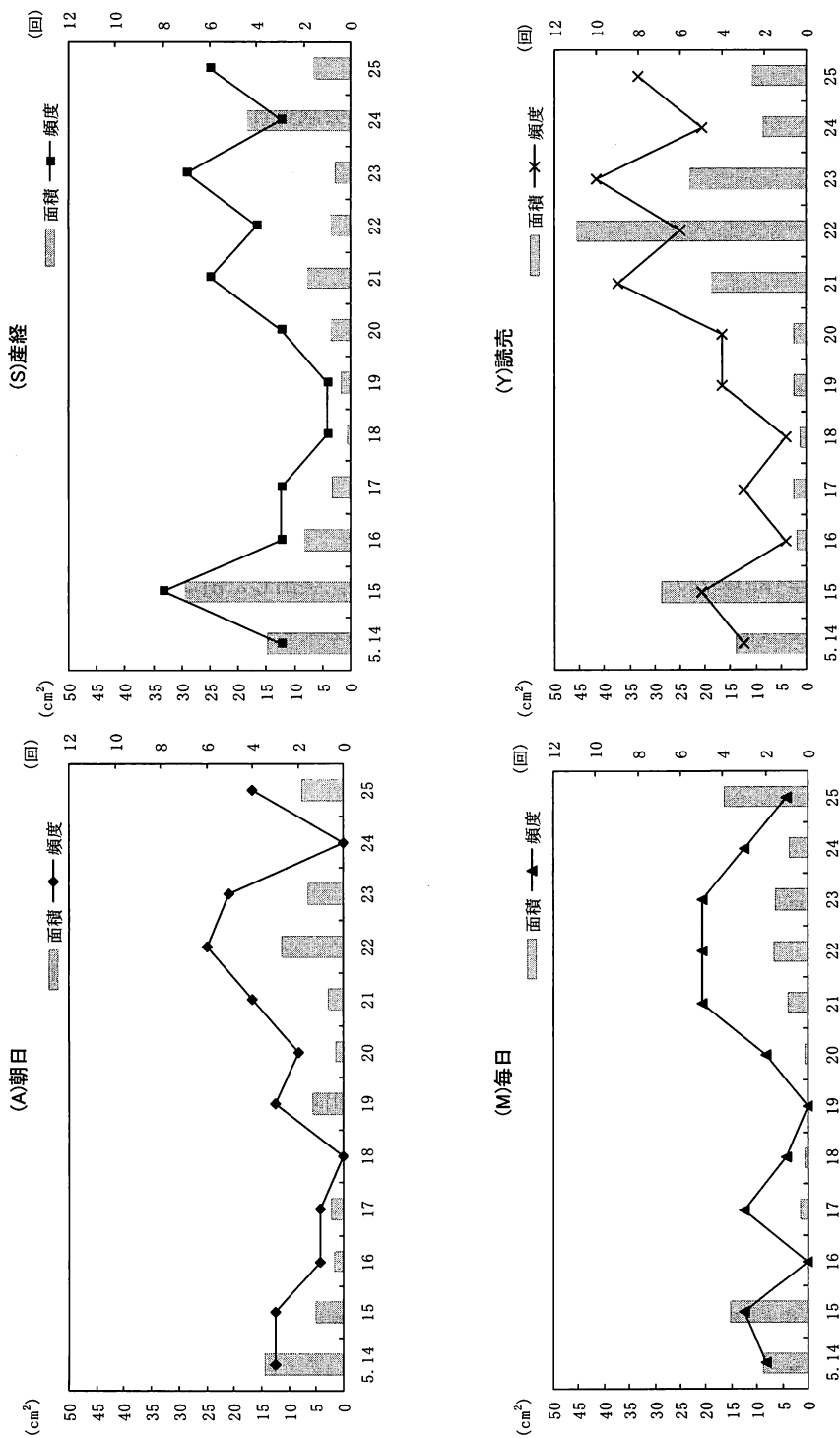


図 1.5 「拉致」の頻度荷重と面積荷重の合成グラフ

考察

(A)朝日

(A)朝日は、再訪朝発表当日の5月14日と、日朝首脳会談当日の22日にピークを形成しているが、ピーク後に荷重量が大きく減少する傾向がある。特に見出し中「拉致」の文字がゼロとなった24日は顕著である。

(S)産経

(S)産経は他紙に先駆け、頻度・面積ともに荷重量を大きくして報道する傾向がある(5.15)。また、報道のピーク後に各紙が荷重量を減少させている中で、(S)産経は引き続き荷重を置いて継続的に「拉致」問題を取り上げていることがわかる(5.16、5.24⁵⁾)。

(M)毎日

(M)毎日は全体的になだらかな荷重の波を描いている。突出した山はなく、21~23日には頻度5回が3日間続いている。その後、「拉致」の頻度は下がっていくが、25日には頻度1回にもかかわらず、面積は大きく4紙中最大となっている⁶⁾。

(Y)読売

(Y)読売は全体的に「声」が大きい。ピーク時には頻度よりも文字の面積を特に大きくして伝える傾向がある(5.15、5.22)。また、22日の日朝首脳会談を挟んだ前後3日間は継続して荷重量を大きくして「拉致」を報じていた(5.21~23)。

1.7 「核」の出現頻度と文字面積

今回の小泉首相の「再訪朝」に関連して、見出しに出現した「核」というワードについても同様の分析を行った。

以下の表1.3は、各紙の見出しから抽出した「核」のデータ一覧である。

5) (S)産経は「投書」の数が他紙に比べて非常に多く36本であった(朝日2本、毎日3本、読売7本)。これは「再訪朝」について投書欄で特集を組んでいたためであるが、特に5月15日と23~24日には1日当たりの投書の数が多い。

6) 前回の分析では、(M)毎日は「後追い(日和見)型」の傾向が見られた。今回の分析においても、期間をもう少し延長すればそのような傾向が見出されたかもしれない。

表 1.3 各紙「核」データ一覧

日付	(A)朝日		(S)産経		(M)毎日		(Y)読売	
	「核」頻度 (回)	「核」面積 (cm ²)	「核」頻度 (回)	「核」面積 (cm ²)	「核」頻度 (回)	「核」面積 (cm ²)	「核」頻度 (回)	「核」面積 (cm ²)
5.14	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
5.15	1	0.81	2	0.52	0	0.00	3	5.82
5.16	2	3.33	1	0.25	2	0.28	0	0.00
5.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	1.00
5.18	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.64
5.19	1	1.44	1	0.56	0	0.00	1	0.36
5.20	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.36
5.21	0	0.00	2	0.41	1	0.36	4	3.36
5.22	1	0.2	1	3.22	1	0.36	4	4.88
5.23	5	5.53	5	1.76	4	2.58	14	21.73
5.24	0	0.00	2	2.11	2	1.74	1	1.96
5.25	0	0.00	1	0.25	0	0.00	2	0.52
計	10	11.31	15	9.08	10	5.32	32	40.63

以下の図 1.6、図 1.7 は、見出しにおける「核」の頻度と面積のそれぞれの値を、時系列軸上にプロットしたものである。

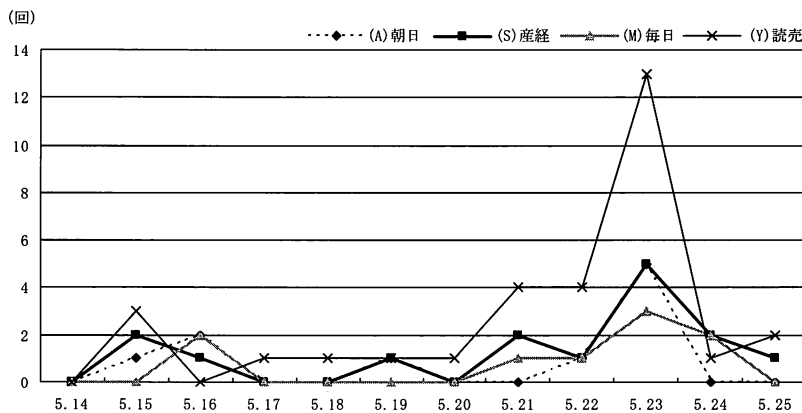


図 1.6 「核」頻度の推移

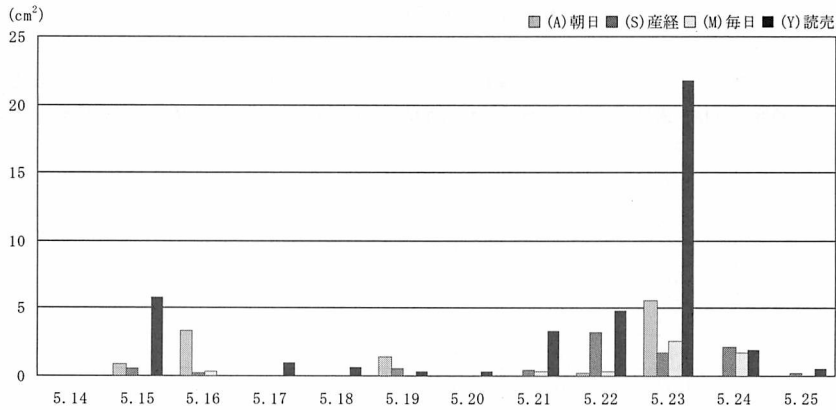


図1.7 「核」面積の推移

考察

図から明らかなように、見出しにおける「核」の頻度・面積ともに(Y)読売の突出が際立っている。特に、23日は頻度14回、面積21.73cm²と期間中最大である。

このことから、(Y)読売は今回の「再訪朝」に関連して、意図的に「核」問題をアジェンダとして設定したことが伺える。

II 新聞紙面における荷重

2.1 「再訪朝」と「小泉首相年金問題」

「再訪朝」が発表された翌日、小泉首相の「年金未加入問題」が浮上した。5月15日の各紙は1面で首相の「年金問題」について大きく取り上げている⁷⁾。

以下の図2.1は、各紙の1面を並べたものであり、続く表2.1は各紙1面の全見出し一覧である。

7) 今回の「再訪朝」は、そもそも小泉首相の「年金隠し」の側面があった。たとえば、〈参院選前に得点?年金批判かわし?〉(5.15-3面(A)朝日)、〈「首相は誠意を見せた」「年金問題ごまかしか」〉〈街は評価二分〉(5.23-30面(A)朝日)、〈訪朝は「未納隠し」〉〈菅氏、首相を批判〉(5.16-4面(Y)読売)などの見出しが掲載されていた。

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2)(木村・板村・池信)



(A)朝日



(S)産経



(M)毎日



(Y)読売

図 2.1 各紙の1面 (2002.5.15)

表 2.1 見出し一覧 (2004.5.15 - 1面)

(A)朝日	(S)産経	M毎日	(Y)読売
小泉首相も年金未加入	首相 22日再訪朝	首相も年金未加入	国民年金
義務化前に6年余	拉致家族帰国に自信	政治責任を否定	首相未加入6年11か月
政治責任「全くない」	不明10人安否確認も	強制以前6年11か月	義務化前など
不信招く説明責任軽視	曾我さん	「未納とは違う」	「未納と違う」
国民年金の未納・未加入問題	大きな期待	野党強く反発	拉致「進展可能性高い」
日朝国交交渉	家族会	衆院厚労委員長未納	首相訪朝表明
日程確定目指す	真相説明を	「年金未納は厚労省に責任」	正常化交渉など再開方針
「22日首相訪朝」を発表	「拉致成果」「妥協」両刃の剣	坂口厚労相	北朝鮮が訪朝報道
民主代表に小沢氏	首相も年金未加入	「拉致進展と判断」	米国務長官も支持
就任受諾18日選出	義務化前の計6年11か月	首相22日再訪朝	民主代表に小沢氏
任期9月末まで	未納と未加入	先遣隊が18日平壤へ	18日選出
女子バレーアテネ切符	民主代表に小沢氏	民主代表に小沢氏	幹事長以外一新へ
日本、韓国破り	任期9月まで18日選出へ	任期は9月末まで	夏に参院選
	女子バレー 五輪切符	幹事長、岡田氏留任か	朝青龍に土
	朝青、連勝35でストップ		歴代4位
			35連勝でストップ

2.2 記事の割付け

各紙とも「再訪朝」と「小泉年金問題」の2つの記事を第1面に掲載しているが、図2.1から明らかなように、(S)産経のみが「再訪朝」と「拉致」についての記事を右上トップの位置に掲載している。これに対して(A)朝日・(M)毎日・(Y)読売は、右最上段で「首相の年金未加入」問題を大きく報じている。

新聞の1面において最上段の右に位置する記事は重みづけが高いと考え、(A)朝日・(M)毎日・(Y)読売の3紙は「年金問題」に荷重して報じる中で、(S)産経だけが「再訪朝」を優先して伝えた。

2.3 見出しにおける「拉致」と「未加入」の文字面積

次に、各紙の記事の見出しに注目して、「再訪朝」については「拉致」、「年金問題」では「未加入」というそれぞれのキーワードの文字面積を比較した(表2.2)。

表2.2 「拉致」と「未加入」の面積

	「拉致」	「未加入」
(A) 朝日	0.00cm ²	14.95cm ²
(S) 産経	8.70cm ²	8.20cm ²
(M) 毎日	6.09cm ²	26.60cm ²
(Y) 読売	4.94cm ²	11.89cm ²

①「拉致」

各紙の「拉致」に注目すると、「再訪朝」に関する記事の中で、(A)朝日のみが「拉致」というワードを見出しに使用していなかった(「拉致」面積=0.00 cm²)。

(S)産経は、「未加入」という3文字よりも「拉致」という2文字の方が若干大きかった(8.70 cm²)。

②「未加入」

首相の「年金問題」を伝える見出しの中の「未加入」という文字の大きさに注目すると、(S)産経以外の3紙が「未加入」という文字を大きく使っていたが、特に(M)毎日が最も大きな文字を使って報じていた(M)毎日は26.60 cm²で「拉致」の4倍、(Y)読売は11.89 cm²で「拉致」の2倍)。

2.4 小泉首相の顔写真の比較

また、各紙とも小泉首相の顔写真を掲載しているが、その扱い方に違いが見られる。以下は、各紙の小泉首相の写真と、それに添えられたキャプション(説明文)である。



図 2.2 各紙「小泉首相」の写真

(A)朝日 <記者の質問に答える小泉首相=14日夜、首相官邸で>

(S)産経 <小泉首相>

(M)毎日 <記者の質問に考え込む小泉首相=首相官邸で14日午後6時59分、佐藤賢二郎
写す>

(Y)読売 <年金問題などについて質問に答える小泉首相>

(下線は引用者)

写真面積の大きさを測ると、以下のようであった。

表 2.3 小泉首相の写真面積比

	面積比
(A) 朝日	6.1 (72.00cm ²)
(S) 産経	1.0 (11.78cm ²)
(M) 毎日	11.0 (130.24cm ²)
(Y) 読売	3.6 (42.00cm ²)

以上の比較からわかるように、M毎日がもっとも大きな写真面積と「未加入」の見出しを使って報じている。また、写真には詳細なキャプションをつけている。

(S)産経は「未加入」の文字面積は小さかったが、首相の写真の扱いも小さかった。

2.5 「再訪朝」と「年金問題」の紙面占有比率

「再訪朝」と「小泉首相年金問題」の記事面積を計測すると、以下の数値が得られた。

表 2.4 「再訪朝」と「年金問題」の面積比

	面積比	
	「再訪朝」	「年金問題」
(A) 朝日	1 (153.96cm ²)	4 (644.04cm ²)
(S) 産経	3 (666.51cm ²)	1 (233.18cm ²)
M 毎日	1 (260.81cm ²)	2 (537.80cm ²)
(Y) 読売	1 (293.02cm ²)	1 (283.38cm ²)

首相の「年金問題」について、最も大きな面積を割いたのは(A)朝日 (644.04 cm²) で、次に大きかったのはM毎日の537.80 cm²であった。それに対し、「再訪朝」について最も大きな面積を割いて伝えたのは(S)産経であった (666.51 cm²)。記事面積の比率を見ると、(A)朝日は、「再訪朝」：「年金問題」 = 1 : 4 の割合で伝えており、M毎日は1 : 2 の割合で「年金問題」の方により大きな荷重を付与していたことがわかる。反対に(S)産経は、「再訪朝」：「年金問題」 = 3 : 1 の割合で「再訪朝」の方に重みづけて報道していた。また、(Y)読売はこの2つの出来事をほぼ同列に扱った (1 : 1)。

2.6 新聞紙面における「荷重レンズ」

「再訪朝」と「年金問題」は各紙とも1面で取り上げているが、その記事の大きさには違いがあった。図 2.3 は、上表 2.4 によって示された「再訪朝」と「年金問題」をどのような面積で割り付けていたかを、その面積比をもとに図示したものである。向かって左が「年金問題」をあらわし、右側に「再訪朝」の記事の大きさを同心円の大きさに反映させて描いている。

図に示されるように、新聞紙面において媒介者である新聞社がデキゴトの大きさをレンズで拡大・縮小して受け手に伝えているように見えることから、本稿では、デキゴトの重要性を媒介者が拡大・縮小する荷重バイアスを「荷重レンズ」とよびたい。「荷重レンズ」

によって各紙が「年金問題」と「再訪朝」のどちらに焦点を当てていたかを視覚的に見てみると、以下のようなものである。

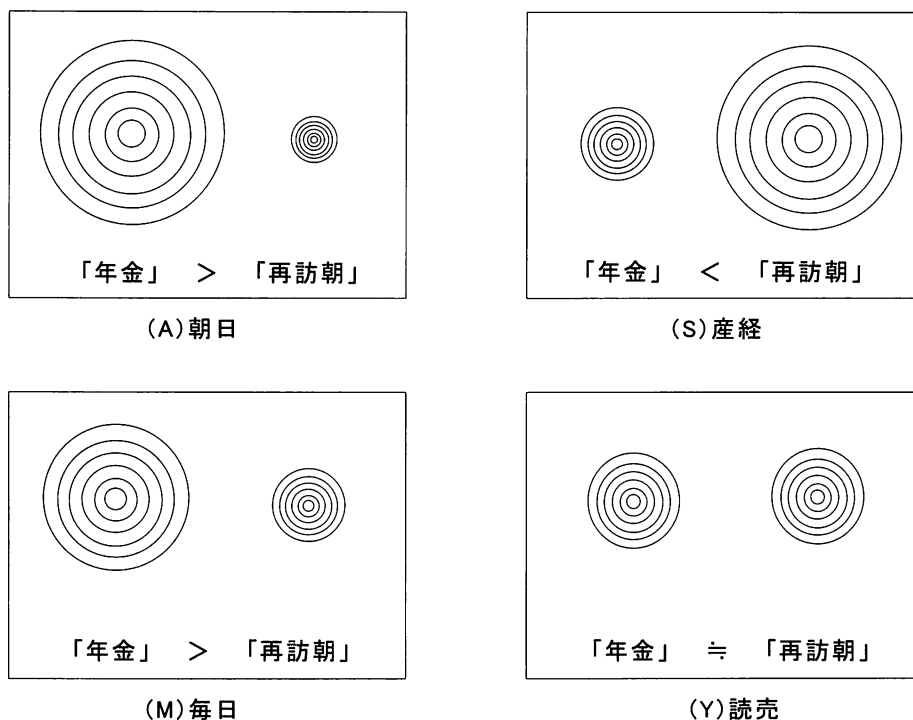


図2.3 各紙1面の「荷重レンズ」(右は「再訪朝」、左は「年金」)

(A)朝日は1面において「年金問題」を大きく取り上げていたので、左側の「荷重レンズ」(による拡大率)が大きくなっており、右側に描かれた「再訪朝」のレンズは小さくなっている。(M)毎日における「荷重レンズ」も(A)朝日と同様に配置されている。

反対に(S)産経は、「再訪朝」を大きく報じていたので、図中右側の「再訪朝」の同心円が大きくなっており、左側の「年金問題」の「荷重レンズ」は小さい。

(Y)読売は「年金問題」と「再訪朝」をほぼ同じ大きさで伝えていた⁸⁾。

8) 以上をふまえて、5月15日における再訪朝関連の見出しの総本数のグラフ(図1.2)を改めて見てみると、(A)朝日と(M)毎日、(S)産経と(Y)読売の大きく2つの組に分けられる。このうち、(A)朝日と(M)毎日の組は(S)産経と(Y)読売の組よりも下部に位置しており、報道量が(S)産経と(Y)読売より少なかったことを示している。

新聞紙面のスペースは限られており、2つの大きなトピックが拮抗するとき、ひとつのデキゴトを大きくとり上げることは、他のデキゴトのとり上げ方が小さくなることを意味している。今回の小泉首相の「再訪朝」と「年金問題」について、どちらを優先的に取り上げるかは、各紙でちがいが見られた。

結びに代えて

本稿では、小泉首相の再訪朝をめぐる4大新聞の荷重報道について記事見出しを中心に検討した。通時的な分析から、「拉致」問題に対する荷重という点では、(S)産経と(Y)読売が大きく、(A)朝日と(M)毎日が小さく報道していたことが明らかになった。特に(S)産経と(Y)読売は、5月15日の時点で拉致問題を大きなイシューとして報道し、連日見出しに取りあげたのに対し、(A)朝日と(M)毎日の両紙はそれぞれ18日と24日および16日と19日の2日にわたっていっさい見出しに取りあげていない。その限りで、前稿(木村他 2004)同様、(S)産経と(Y)読売が「拉致」問題に積極的で、(A)朝日と(M)毎日では消極的な報道姿勢をとった、と言うことができる。

今回の訪朝に関連して、北朝鮮による核開発問題がひとつの争点になった。核問題を積極的にとりあげたのは(Y)読売であった。その重みづけ(荷重)は、面積比にして(A)朝日、(S)産経の約4倍、(M)毎日の約8倍に及んだ。核問題に対する(Y)読売の荷重の大きさが注目される。

再訪朝に関して、その唐突な発表が、国内政治の「争点隠し」との疑惑を呼んだ。各紙で「再訪朝」と「国民年金未加入問題」の重みづけに差異が見られたことは興味ぶかい。新聞紙面は、限られた面積をもつ。複数のイシューが存在する場合、一方の記事を大きく扱うことは、必然的に他方を軽視することになる。ある主題へ注意を喚起することが、他の主題に対する注意を削ぐことにつながるのである。メディアの意図の有無は別として、この種の「誘導による暗点化」つまり「ミスディレクション」(いうならば「あっち向けホイ効果」)は、新聞紙面の限定性、ひいては読者のワーキング・メモリーの有限性によって、必然的に発生することに注意したい。

なお、荷重レンズの図から明らかのように、「年金問題」を「訪朝」より大きく扱ったのは、(A)朝日と(M)毎日であった。編集における荷重バイアスの存在を推測させるデータである。このバイアスの存在は、一紙のみの購読では可視的にはならない。自分の購読紙に絶大な信頼荷重をおく読者は、そのレンズを通じてみた世界を「事実」として見る、つまり「荷重された像」を「客観的な出来事」それ自体として見るからである。メディアによる「リアリティ構成」(一種の「マインドコントロール」といいだろう)の呪縛を解くには、客観報道の神話の背後で作動している荷重バイアス(荷重レンズ)の存在に気づかなければならない。この荷重バイアスの実態は、複数のメディアの報道の内容よりもむしろ形式を比較することによってはじめて明らかになる。われわれがこの間、荷重報道

の比較研究に取り組んできたのはまさにこの荷重バイアス(編集バイアス)を解明するためであった。次の課題は、取材記者のバイアスと読者のバイアスの構造を、ネットワークにおける荷重のトリオン変換問題(木村・渡邊 2004)をふくめて、分析することである。

文 献

- Berger, P., and Luckmann, T., 1966, *The Social Construction of Reality*, Anchor(=1975、山口節郎訳『日常世界の構成——アイデンティティと社会の弁証法』新曜社。)
- Berelson, B.R., 1952, *Contents Analysis in Communication Research*, New York, Free Press(=1957、稲葉三千男・金圭煥訳、「内容分析」『社会心理学講座 7 大衆とマスコミュニケーション(3)』みすず書房。)
- 池信敬子、2004、「紙面にあらわれた『重みづけ』要素の比較分析—『日本人拉致』事件に関する新聞報道をめぐって」『科学研究費補助金研究成果報告書(平成14年度~平成15年度) 基盤研究(C)(2)、研究課題番号:145102、研究課題名:社会的コミュニケーションの多重媒介モデル理論の構築と分析』(研究代表者 木村洋二):51-61。
- 板村英典、2004、「北朝鮮による日本人『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究—見出しにあらわれた『拉致』の出現頻度と面積を中心に」『科学研究費補助金研究成果報告書、基盤研究(C)(2)、研究課題番号:145102』13-49。
- 板村英典、2004、「『潘陽事件』をめぐる荷重報道の比較研究—4大新聞における見出し語を中心に」『人間科学』61:39-64。
- 伊藤陽一、1999、「内容分析の可能性と限界(特集 データサイエンス——第2部 データサイエンスの世界)」『Keio SFC review』3(1):75-80。
- 木村洋二、2001、「ソシオンの一般理論(Ⅲ)——トリオンからソシオスへ」『関西大学社会学部紀要』32(2):1-104。
- 、2004、「活字サブリミナル『新聞見出し』は拉致をいかに報じたか——四大紙徹底全調査全分析」『諸君』36(6):128-138。
- 木村洋二・渡邊太、2004、「ソシオン・コミュニケーションの多重媒介モデル」『関西大学社会学部紀要』36(1)。
- 木村洋二・池信敬子、2002、「ソシオンのネットワークと鏡像のコミュニケーション(1)——密告・盗聴のモードをふくむ会話のマトリックス」『関西大学社会学部紀要』34(1):45-97。
- 木村洋二・板村英典・池信敬子、2004、「『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道——多元メディアにおける『現実』の相互構築をめぐって」『関西大学社会学部紀要』35(3):89-121。
- 木村洋二・林文川・板村英典、2003、「『李登輝来日』をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究」『関西大学社会学部紀要』35(1):157-210。
- 増田のぞみ、2004、「『内容分析』手法におけるメッセージの『重みづけ』—『報道荷重分析』との比較から」『科学研究費補助金研究成果報告書、基盤研究(C)(2)、研究課題番号:145102』93-99。
- 西尾幹二、2003、『壁の向うの狂気——東ヨーロッパから北朝鮮へ』恒文社21。
- 新聞整理研究会、1994、『新編 新聞整理の研究』日本新聞協会。
- 竹下俊郎、1998、『メディアの議題設定機能』学文社。
- 小林弘忠、1998、『新聞報道と顔写真』中央公論社。

古森義久、1995、『ベトナムの記憶——戦争と革命とそして人間』PHP研究所。

Krippendorff, K., 1980, *Content Analysis: An Introduction to Its Methodology*, Beverly Hills: Sage Publications. (=1989、三上俊治・椎野信雄・橋元良明訳『メッセージ分析の技法——「内容分析」への招待』勁草書房。)

熊田亘、1994、『新聞の読み方上達法』ほるぷ出版。

渡邊太、2004、「マス・コミュニケーションの反対効果—メディア不信のネットワーク動作と情報の濾過」『科学研究費補助金研究成果報告書、基盤研究(C)(2)、研究課題番号：145102』101-129。

———、2004、「現実感と荷重—意味の生成とメディアについての考察」『科学研究費補助金研究成果報告書、基盤研究(C)(2)、研究課題番号：145102』131-169。

—2004.7.10受稿—

資料 「再訪朝」 関連見出し一覧

5/14	朝日新聞			産経新聞			読売新聞				
	ページ	見出し	【見出し】掲載日	ページ	見出し	【見出し】掲載日	ページ	見出し	【見出し】掲載日		
e-1	首相、22日再訪朝 拉致被害者家族出迎え 平壤宣言 前進へ共同文書 【打開へ向けた】「脱引き困難」	5.6	e-1 北独家族帰朝に道筋 首相、来週末に訪朝 平壤宣言、朝露町で再確認へ トップダウンで決断 政府内に強い疑念	11.6	e-1 首相 22日に訪朝 金正恩と会談も 【拉致】家族8人帰朝へ	e-1	首相 22日に訪朝 金正恩と会談も 【拉致】家族8人帰朝へ	8.16	e-1 首相 22日に訪朝 金正恩と会談も 【拉致】家族8人帰朝へ	6.48	
e-10	日朝、拉致解決へ一致 首相、再訪朝へ 参院選前に「成果」 北朝露に「成果」 経路調整を完成 日本人拉致問題 北朝露代表団来朝の姿勢非難 6者協議作業部会	8.51	e-13 6カ国協議作業部会 北、米を強く非難 継続は強めに e-14 脱引き懸念の声も 拉致遺児帰朝を希望 平沼氏を首相候補に 【子供たち連れて帰って】 e-15 首相再訪朝へ 確実な「成果」を 拉致被害者家族ら期待	0.45	e-11 首相再訪朝へ 【全面解決に道筋を】 拉致被害者家族ら “切り捨て”を警戒	e-13 首相再訪朝 首相再訪朝 【阿らかの成果】期待 作業部会、全体合意を再開	e-15 首相再訪朝 子供たち連れ帰って 期待と不安	e-15 首相再訪朝 子供たち連れ帰って 期待と不安	5.5	2	
5/15	1 日朝国交交渉 日程確定目指す 【22日首脳訪問】を発表 3 見切り訪朝 首相限付 参院選前に得点？年金批判かゆし？ 拉致打開なお不透明 【成長ない】脱北不安現 北朝露とデイトラップで報じる 朝鮮半島非核化は一致 6者協議作業部会 次回は来月中旬に開催 【社説】首相再訪朝 懸案打開の突破口に	0.81	1 首相22日再訪朝 拉致家族帰朝に自信 不明10人安全確認も 2 習氏さん 大きな期待 家族会 真相解明を 【拉致成長】「脱北」両刃の剣 【社説】首相再訪朝 【拉致】解決に焦りは禁物 拉致問題進展へ歓迎 米朝 6カ国はこうび危機	2.76	1 【拉致進展と判断】 首相22日再訪朝 先遣隊が18日平壤へ 米朝 北朝鮮「拉致」風潮に 強硬路線の孤立警戒 強硬路線の孤立警戒 首相再訪朝発言 トップ交渉、急転回 【社説】首相再訪朝 短期的成果を重視 村田見解、向志社大助教授（国際政治学）の	6.09	1 拉致「進展可能性高い」 首相再訪朝 正常化交渉など再開方針 北朝鮮が朝露報道 米朝務長官も支持 2 対話戦略を強化 日本の圧力、回 村田突破口 北の意思 【包摂解決】視点が不可欠 政治部次長 内田明彦 本協議前の再開で合意 6カ国作業部会3日目終了	6.09	1 拉致「進展可能性高い」 首相再訪朝 正常化交渉など再開方針 北朝鮮が朝露報道 米朝務長官も支持 2 対話戦略を強化 日本の圧力、回 村田突破口 北の意思 【包摂解決】視点が不可欠 政治部次長 内田明彦 本協議前の再開で合意 6カ国作業部会3日目終了	4.94	
	4 首相の訪朝関連発言 細田長官会見 (要旨) 7 北朝鮮 小泉首相受け入れ 対米交渉にらみ「軟化」 対日改善にも本腰？ ・米 くすむる懸念 ・中 【6者】へ期待 ・韓 首相決断評価面 兵器の取引をリビアが中止 社北朝鮮 G8外相会合		北、国交正常化へ駆け引き 人道支援、経済協力もくろむ 平壤放送トップ報道 日朝平壤報道 首相、拉致解決へ積極決断 22日に再訪朝 山崎拓氏が「舞台演出」 先月交渉 参院選の御近サイン ・第3の男 ・北耳に水 開米朝との協議体前倒しを懸念 宮沢氏 6カ国協議 来月 某までで開催		3 拉致打開 首相の決断 22日再訪朝 水面下で準備1か月 【私が行く】「責任取る」慎重押し切り 一環担った「10時会議」 外務省「細田出迎え」案 日朝平壤宣言 【社説】首相再訪朝 原則を置く姿勢こそが大膽だ 【競】への影響 米注視 首相22日訪朝 日本の立場 支持 【軟化】イメージ警戒 中国、日朝融和を期待 北に水面下で拉致解決促す	12.42	3 拉致打開 首相の決断 22日再訪朝 水面下で準備1か月 【私が行く】「責任取る」慎重押し切り 一環担った「10時会議」 外務省「細田出迎え」案 日朝平壤宣言 【社説】首相再訪朝 原則を置く姿勢こそが大膽だ 【競】への影響 米注視 首相22日訪朝 日本の立場 支持 【軟化】イメージ警戒 中国、日朝融和を期待 北に水面下で拉致解決促す	12.42	3 拉致打開 首相の決断 22日再訪朝 水面下で準備1か月 【私が行く】「責任取る」慎重押し切り 一環担った「10時会議」 外務省「細田出迎え」案 日朝平壤宣言 【社説】首相再訪朝 原則を置く姿勢こそが大膽だ 【競】への影響 米注視 首相22日訪朝 日本の立場 支持 【軟化】イメージ警戒 中国、日朝融和を期待 北に水面下で拉致解決促す	5.06	0.72

注) ・「ページ」の e はタリを示す
・朝日・毎日・読売新聞は縮刷版の面積を4倍して原紙サイズに合わせた(単位cm²)

0.45	【拉致も議題】米国防省見直し「大きな役割」達成しなければ引道を」期待・税金…揺れる家族 韓国「1日でも早く」拉致還り首相再訪朝へ【悲劇】「動かぬよりのい」【平々の気持ち】	作樂顕会 核武装、進捗せず ・福井県立大教授 島田洋一氏 北への圧力弱めるな 中野輝政氏 懸念される3つの分断 小泉首相の発言・細田防衛長官意見(要旨) ・首相発言 ・細田長官会見 ・細田防衛長官	0.36	韓国 手短し「大歓迎」 対話ムードの高まり期待 6か国協議 核協議 深入り進む北朝鮮 【6か国】作樂顕会は平行線 与党、参院選へ「成果」期待 野党、参院選へ「成果」期待 韓国と朝鮮との関係 外交正常化交渉は慎重に 首相の発言と官房長官の発言 ・首相発言 ・細田長官会見 小泉再訪朝 【6か国協議】相いすました北朝鮮 日本は「拉致」に加え「核」「ミサイル」解 決に追い詰め 【宋入国】「死亡」10人 家族の胸中 複雑 「拉致」撃引き心配 北朝鮮メンツ立った／家庭には正常化交渉も ・道田徳大、高崎宗司教授 (国際関係論) の話を ・在日朝鮮人総連合会(朝鮮総連)のコメン ト ・大阪経済法科大・吉田晴彦教授 (現代アジ ア論)の話 大きな転機「今度こそ」 首相再訪朝へ 1年7か月経る思い 維池さん 「中場」に向いても 事限 進展願うだけ 憲法擁護委員会が意見 首相訪朝時 へキョンスン米日要請 政府後討 自由往来案も浮上 北朝鮮の別荘建設 TNT火薬800トン級 C T B T 破壊集計 軍事燃料調達か G8 イラク復興 重要性確認 外相会談再開 首相訪朝に朝野両派 子供の帰国に備え地村実家と面談 地村知事 首相再訪朝 「一水一土へ全力を」
0.96	【北朝鮮の状況】北朝鮮の状況、金正恩の再訪朝へ期待 【北朝鮮の状況】北朝鮮の状況、金正恩の再訪朝へ期待	0.78	・地村さん生涯 ・池田さん生涯 もう限界、トップ会議しかない 拉致被害者5人が切望 安倍不明者の家族 家族帰国で導引き認めない 首相訪朝を支持 米国防省見直し	
4	【北朝鮮の状況】北朝鮮の状況、金正恩の再訪朝へ期待	e-9	外相が求む訪露 米国防省見直し e-11	
e-1	元夫人の三木麗子さんの話	e-11	小泉首相の再訪朝 職責の爪さ 深く省察を	
e-10	【北朝鮮の状況】北朝鮮の状況、金正恩の再訪朝へ期待	6	日本外相会談 米、首相訪朝を支持	
e-13	【北朝鮮の状況】北朝鮮の状況、金正恩の再訪朝へ期待	22	南北世評会談、26日に 小泉首相の再訪朝 【拉致】「正論」を通した進展に期待 【拉致】首相にそぐわない案提出も 【拉致】 戦争の具となった拉致問題 【拉致】 被害者を温かく見守りたい 【拉致】 疑われた「北」の誠意と真意 【拉致】 注目したい小泉サブプライム 【拉致】 急がれる新生活への後押し 【拉致】 持ちこたえられなかった家系分断に心痛む 【拉致】 「連れ戻し」へ家族の同行を 【拉致】 経済支援を含めた原則貫け 【拉致】 友好の「駆け橋」の完成を願う 各自自治体のカリキュラム 【精神面のケア】要望も 子供たち支えに一元 再訪朝 間時と困惑 拉致被害者家族に温度差 ・祖国の被害者 「早く会いたい」 「安否不明」 「安否不明」 ・首相は援助指否を 李善相・韓国入道教授の話 ・タイミンクが不報 ジキナーナリスト、櫻井よしこさんの話 e-1】子供の帰国に支援要請 e-9 G8外相会議 首相訪朝 理解求める 川口外相	
		30	各自自治体のカリキュラム 【精神面のケア】要望も 子供たち支えに一元	
		31	再訪朝 間時と困惑 拉致被害者家族に温度差 ・祖国の被害者 「早く会いたい」 「安否不明」 「安否不明」 ・首相は援助指否を 李善相・韓国入道教授の話 ・タイミンクが不報 ジキナーナリスト、櫻井よしこさんの話	
		e-1】子供の帰国に支援要請 e-9 G8外相会議 首相訪朝 理解求める 川口外相		

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2)(木村・板村・池信)

5/16	1	小泉首相 再訪朝 家族帰国どう実現 ・ジェンキンスさん 来日が焦点 ・ヘキョウさん 損益を冒も帰国	0.16	北への前向き報道否定 核継続なら帰国共通認識あった 北代表 毎金政局全面対決 首相訪朝「乾坤一擲」の勝負VS小沢代表 で連戦連朝 e-11 首相再訪朝 「仕事休み子供の帰国を」 受け入れ準備 柳村夫妻 加賀に要請 救う姿は街頭アピール	2	「脱北野」報道が焦点 小泉首相再訪朝 菅我さんの来日 ・本人が出国に難色か ・米は厳格な対応せず ・「日本で入院」悪化因る？	1	ジェンキンスさんのおい訴え
	2	自民幹部、首相再訪朝に厳しい注文 不明10人の安否確認を 安倍幹事長 未解決なら入港禁止法 3つのポイント 首相と一緒に家族帰国「不明」調査委/コメ など人道支援			3	(社説)六か国協議 進展を促す「北」の身勝手な言い分 作業部会に申し北朝鮮が未批判 6か国協議 小泉訪朝は有意義 中国外務次官が歓迎 訪朝は「未解決」 菅氏、首相を批判 金大中氏講演 拉致問題でやり、強固価値観貫通 拉致委員の再会祈る 「手帳より少しでも」 首相再訪朝 目撃証言に無罪を断言 「拉致」濃厚18人の家族 ・「おだ」派 ・我慢も少し ・忘れないうで		
	3	小泉首相の再訪朝 拉致被害者の死に消極、責任者の処分… 通告不発で「死引き」懸念 でためめの証拠 ・残る不自然さ サムット文書に「拉致」明記目指す 日本政府 北朝鮮 G8外相会議 各国の理解深まる 米商務長官も首相訪朝支持 川口外相と会談	0.65		4	首相の再訪朝に強硬姿勢求める 安倍氏ら 格差全廃を要求の米再難 作業部会後に北朝鮮副委員長 「訪朝は有意義」 中国外務省 北朝鮮の核問題	0.12	
5	5	「6者」作業部会 核継続の議論進まず 首相訪朝に期待感 北朝鮮が非難	2.52		4	核継続 北「黒箱和」は除外 6か国協議 作業部会で日本反発 朝鮮中央通信発表の8倍 小型原爆56 北の列車遮断 火薬800トン級 拉致問題 完全解決訴え 被害者の家族約30日に救出支援集会 豊中 北朝鮮7サリに自毒 規制値上回る 山口県が回収命令 特定失踪者の救出訴え 家族、街頭で署名活動	0.25	
34	34	拉致被害者5人 ・柳村さん夫妻 ・日本の名届け出 ・妻地さん夫妻 長女の成嫁を心配 「軍から脱走ではない」 ジェンキンスさん親族訴え	1.8	24	24	4.14		
5/17	1	再訪朝に賛成80% 日朝首脳会談 コメ25万トン支援表明へ 「家族帰国」など条件 拉致被害者 上京へ 訪朝日 首相との面会希望	2.31	1	1	1.05	1	拉致問題進展なら 北朝鮮に食糧支援 首相訪朝で政府方針 数十万トン程度 北の核、打開糸口際る 首相再訪朝 米との橋渡し役にも
	3			2	2	0.55	2	

<p>「訪朝の意向説明を」 有本さん家族 「8人の帰国で成果と言えず」 植田さん夫妻 米大総領と電話協議へ 首相 帰国の子ら支援種井原が検討会</p>	<p>11 e-1 e-9 e-11</p>	<p>「なぜこの時期に」 「安易な安易評さぬ」 ・家族会 ・植田さん 首相再訪朝 拉致解決折衝の家族 ・有本、松木さん 「生き返らせる」交渉に 見落としを首相再訪朝の国際環境 巧選は迅速に知らせずと言えぬか ・切り目はただ一度だけ ・建前にすぎぬ日米韓連携 ・要約状況と北の取捨懸</p>	<p>1.53</p>	<p>24 「拉致認定外の3人は 静かに無事待つ親族ら ・小住健蔵さん ・松本京子さん 21日に上京 選送さんら5人 有本さんの家族ら 「首相訪朝前にせむ面談を」 e-7 日朝首脳会議へ先遣隊20人出発 きめ細かく自立支援 拉致被害者家族 各自治体が受け入れ準備 ・種井原小浜市 ・新潟県佐渡市 ・新潟県佐渡市</p>	<p>0.78</p>	<p>6 首相訪朝向け先遣隊を派遣 あす平壤入り 首相 22日に再訪朝 帰国の子らに心のケア 反日教育や「悪い心配 地村さん謝罪・小浜市 へ「願いたい」 拉致解決が先 ・植田さん夫妻、複雑な例中 有本さん夫妻も首相面会求める 習我手につかず 望我さん e-1 再訪朝 経緯説明へ 日米首脳、今夜電話会議 首相訪朝先遣隊が出發 e-2 e-14 習我さん家族の受け入れ準備協議 佐渡市</p>	<p>1.8 0.32</p>
<p>5/18 2 家族帰国、首相と別日程も 電財長官見解示す 8人全員が帰国準備整えさん断え 中山参りに電話 ジェンキンス氏問題 米、断送免除の意向「見せず」 ファンシェ大総領「訪朝成功祈る」 3 日本青島が電話協議 日米青島が電話協議 4 稲らぐ封じカード 入港禁止法案 定稿み 政府・公明 「首脳会議決案」 安倍首相長 「圧力は必要」 日朝会議 先遣隊 北京入り 習我さんの夫 米、断送免除に消極的 米紙報道 国防長官が断固拒否 首相と同時帰国協議内容で決定 細田官房長官 拉致解決すればはコメ支援もある 0.32 安倍首相長 新函館など 若狭緊急ピッチ 先遣隊、平壌へ e-11 日朝会議 e-12 官房副長官が拉致家族と面談</p>	<p>1 3 4</p>	<p>首相の訪朝を米大総領「支持」 電話会議 小泉首相、再訪朝 「特定失踪者」の消息情報も断符 ・類似性の存在 ・新たなルート ・失蹤多発地域 稲らぐ封じカード 入港禁止法案 定稿み 政府・公明 「首脳会議決案」 安倍首相長 「圧力は必要」 日朝会議 先遣隊 北京入り 習我さんの夫 米、断送免除に消極的 米紙報道 国防長官が断固拒否 首相と同時帰国協議内容で決定 細田官房長官 拉致解決すればはコメ支援もある 0.32 安倍首相長 新函館など 若狭緊急ピッチ 先遣隊、平壌へ e-11 日朝会議 e-12 官房副長官が拉致家族と面談</p>	<p>0.72</p>	<p>1 3 9 26</p>	<p>首相の訪朝を米大総領「支持」 首相と電話協議 3 対北朝鮮 外務法発動せず 平壤宣言履行なら 首脳会議で広達へ 「被害者5人と会う予定ない」 小泉首相 日朝首脳会議結果で支援も 外務事務次官 e-7 ジェンキンス氏断送免除困難か 殊るは政治決着 「家族は日本で時間かけ会議を」 中山官房参事 9 北朝鮮側協議が日本非難の急評 小浜など3市長 家族支援協議調整へ 訪朝のNGO事務局長 「習我さんの夫、入院中」 拉致被害者家族と面会</p>	<p>0.32</p>	<p>1 2 1.36</p>
<p>5/19 1 拉致被害者家族</p>	<p>2</p>	<p>1 訪朝取材日アフレコ</p>	<p>0.72</p>	<p>2</p>	<p>2 在任中に日朝正常化</p>	<p>2</p>	<p>2</p>

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2)(木村・板村・池田)

22日帰国へ政府準備 子連れ使用の予定	日テレ同行拒否 ジェンキンス氏米の処分は未定	官邸 「コメ支援」報道で?	首相、首脳会談で表明へ 「拉致」「核」解決前提	0.72/ 0.36
ジェンキンス氏、難色 日米犯罪人引き渡し条約 在韓米軍の東部北朝鮮に認知果 米国防副長官が見解	7 北メディアが対日非難 拉致被害者家族全員の気持を年頭一般会談を 有本さん同様に 「首相に思いを述べたい」 家族会 合同調査案に反対 受け入れ態勢自体意見交換 子供帰国に備えきまよう引越す 地村さん夫妻 米国防副長官 e-11	2 ジェンキンス氏米日問題に言及 日米新聞協定細田氏官弁談 首相訪朝 先進国、半信に村長本部 家族帰国、北朝鮮と調整 米国務副長官 国連説明、北朝鮮訪問へ よど号イサ業者引き渡す 日朝首脳会談で要求へ 子ども受け入れ確保で引越す きょう受け入れ「万全保くす」 訪朝取材日テレ排除 「独断的」「韓国だ」 識者ら一斉批判 訪朝取材で官房長官 e-9	北朝鮮メディア拉致事件を激評 日テレ同行取材を拒否 コメ支援報道巡り 首相防衛で官邸筋 「日本テレビ広報部の話 ジェンキンス氏 会場で米政府高官 北朝鮮の人権状況 「未知ぬむむと」 米報告書	0.32
31 首相再訪朝 どういう見 程問題 議論引き出せ 拉致家族 帰れば成果 拉致被害者の子ども 精神的ケア課題に 「突然日本人」 期定には説明 ・旅行と往來 ・自由に住居 ・親子間で 一戸建て住宅に地村夫妻転居へ 首相再訪朝 日テレ同行、一時拒否 首相官邸 「報道で被害」理由に e-10	26 地村さん引越す 首相訪朝 「勝かぬ環境で子供たちと話」 「万原峰」が新聞入港 e-12	首相訪朝 「拉致」問題	0.18	
3 北朝鮮 食糧支援の文書化要求 首脳会談時事相調整 日本側は拒否 日テレ拒否を撤回 官房長官正式表明 報道内容には「遺憾」 北朝鮮の食糧事情 家族全員帰国「通訳作れば」 小泉首相 ジェンキンス氏時効期間「停止」 「なぜうちだけ」回答なし 平沼氏が首相に要請	1 北「93年に死亡」 「横田めぐみさん95年に生存」 「救う会」情報入手 金彩伊記息子の教師 まず帰国 ジェンキンス氏ら拉致家族8人 2 「診察室までに入る婦したい」 2月、山崎氏に帰らす 「首相再訪朝」の撤回 大枠決めた「大連会談」 5 首相、秘書官を注意 日テレの訪朝同行認める 7 首相訪朝 「北・ニカイア」撤廃提起を 米議会調査局朝官 1.87	拉致被害者 家族即日帰国国まる 首相訪朝 伊我さん夫妻は微妙 「診察室までに入る婦したい」 2月、山崎氏に帰らす 「首相再訪朝」の撤回 大枠決めた「大連会談」 官邸に働きかけおこりいしか 北朝鮮の食糧事情過去10年で最高 昨年 23 日テレ排除問題 報道転朝の危険 飯島秘書官ら 発言力強まる 各社から批判相次ぐ 友梨さん不明1年 希望捨てず、普通の生活を 横田夫妻	1.28	
4 拉致問題解決「18日外も」 29 秘書官、日テレ同行一時拒否 取材要求に反発 「なぜうちだけ」回答なし 記者 「メディアへの同感」 30 「拉致」認定外家族ら 期待と切り捨ての不安	19 理不尽な反論には退席も覚悟せよ 首相再訪朝で譲れぬ3つの主張 ・8人の意思確認は日本で ・たつらめ情報に撤回要求 ・全員救出の強い決意示せ 31 山口八重子さんの長男	首相「禁じ手」批判 日テレ報道への対応 取材陣開示要求 報道の自由度す 川上和久・明治学院大法学部長(政治心理 学)の話 細田官房長官の会見要旨	0.78/ 0.36	

歌う「会えると同じ」	<ul style="list-style-type: none"> ・運池さん夫妻 ・祖父の写真撮え上京 ・梅村さん夫妻 「子の心、癒れないか…」 不明者赤口を「前報出させて 3団体、首相へ注文 脚本会「拉致慰み欲しい」 新たに10人追加 	29	<p>「希望」冷めぬ「用意して</p> <p>家族水入らず夢見て</p> <p>きょう日朝首脳会談</p> <p>子供たちに贈る「おめでとう」</p> <p>梅村さん夫妻</p> <p>大好きな絵巻買ひそえ</p> <p>運池さん夫妻</p> <p>希望に「かわいひかパー</p> <p>習習ひとみさん</p> <p>家族8人帰国へ協議</p> <p>首相、金総書記と会談</p> <p>脚本会「拉致慰み欲しい」</p> <p>新たに10人追加</p> <p>平壤</p> <p>日朝首脳会談の出産者</p> <p>日朝国交正常化交渉</p> <p>金総書記</p> <p>飯沼、多牛、大田な一面も</p> <p>「後がない」北韓演</p> <p>市場原理導入でインフレ/村テロで武器輸出</p> <p>不振</p> <p>「8人帰国 今夕迎える」</p> <p>山崎拓氏</p> <p>小泉首相の訪韓選挙</p> <p>再会へ期待と祈り</p> <p>「神様がかなえてくれる」</p> <p>ドキュメント</p> <p>「一晩一緒に寝たい」</p> <p>彼等から若書え持ち</p> <p>「フルーリーボ」首相に</p> <p>0.36</p>	0.78	<p>家族つ拉致被害者</p> <p>「もつ幸せになれるから」</p> <p>弟我さん 再会思い過ぎ</p> <p>「朝鮮語で、よく頑張った、と」</p> <p>地村安希望と豪邁</p> <p>「おやじとお袋を雇しろ」</p> <p>運池さん夫妻</p> <p>家族8人帰国要求</p> <p>拉致問題の解決迫る</p> <p>日朝首脳が会談</p> <p>来月、正高化交渉再開も</p> <p>外務次官出迎えラントは下がる</p> <p>経済協力獲得にらみ</p> <p>北朝鮮</p> <p>こう君執意打開に期待</p> <p>日朝首脳</p> <p>1年8カ月ぶりに会談</p> <p>「8人帰国」で詰め</p> <p>核問題</p> <p>解決の可能性低く</p> <p>不明10人の解明焦点</p> <p>「実行ある再開案」約束か</p> <p>拉致被害者なら人道支援要</p> <p>首相の到着を速報</p> <p>朝鮮中央通信</p> <p>「またお前起こして」</p> <p>和紙につづった</p> <p>特定失踪者</p> <p>3人の家族</p> <p>安否不明10人の家族</p> <p>期待と不安交錯</p> <p>「閉居している」飯塚さん家頭</p> <p>「きつとやってくる」</p> <p>首相も「暫いりボシ」</p> <p>拉致被害者</p> <p>家と断絶絶す</p> <p>「厳しい空路も平癒」</p> <p>運池さん</p> <p>関係改善へ願い切実</p> <p>大飯の在日コリアン</p> <p>ドキュメント</p>	35	<p>家族の「意思確認」でけん制/不明10人「調</p> <p>査再開も」</p> <p>不明被害者</p> <p>真相 命がけで対話を</p> <p>不明者新たに6人</p> <p>平壤冷たい反応</p> <p>「家族一つに」祈り</p> <p>再会狙しる5人</p> <p>もつと幸せになれる</p> <p>・的現ひとみさん</p> <p>「頑張ったね」朝鮮語で</p> <p>好物の冷めんとを準備</p> <p>・地村さん夫妻</p> <p>・運池さん夫妻</p> <p>拉致家族と面会</p> <p>日朝首脳が再会談</p> <p>政府</p> <p>韓国受け入れ準備</p> <p>大同江遊覧船</p> <p>29.97</p> <p>飯塚の会談 “真例勝負”</p> <p>金総書記</p> <p>自ら拉致問題 言及</p> <p>終了時「また会いましょう」</p> <p>小泉首相、根本改善へ決意</p> <p>「日本の努力支持」</p> <p>米報道官</p> <p>北朝鮮 容ない出迎え</p> <p>総書記の不満示す？</p> <p>前回ナンパバー2</p> <p>今回は橋下外務次官</p> <p>5・22ドキュメント</p> <p>北朝鮮の外務次官</p> <p>待望の一瞬 見守る列島</p> <p>向敏生「心一つに」</p> <p>自治体 準備態だたく</p> <p>・小浜</p> <p>・佐津</p> <p>・佐野</p> <p>生野コリアタウン日朝関係改善期待</p> <p>「天気よくなった」金外務次官出迎え</p> <p>平壤の空想</p> <p>「一線に一致強たい」</p> <p>折る気持「期待と希望」</p> <p>「複雑な心算」「愛国だった」</p> <p>北朝鮮への思い語る</p> <p>受け入れ準備進む</p> <p>5人の地元福井・新潟</p> <p>へギョコンさんへブレゼント託す</p> <p>1.36</p>
------------	--	----	---	------	---	----	--

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2)(木村・板村・池信)

<p>「朝鮮外交、預けない」 首相を批判「責任取って」 「首相は誠意を見せた」年金問題こまかし か」</p>	<p>術は評価二分 「尿志にぞっくり」 同級生ら批判 小浜市は横断幕 「2人生存確認」テロと朝日誤報 日朝国交促進国民協会事務局長の相田泰輔・ 東大名誉教授の語 ・なすべいき事成した</p>	<p>29 小泉首相再訪朝 喜びがゆがゆさ 市民ら 竹塚さんを気遣う声 「関係しない」に反発 支援団体、相違を指摘 「大丈夫」きゅっと抱きしめた 相田さん、蓮池さん 「息子、背が高く」 家族の後、首相も乾杯 「生活益出頑張った」 「一緒に暮らすまで」「頑張る」 菅我さん 2大誌に「おめでとう」</p>	<p>31 「また置き去りに」 家康が首相を批判 相田めぐみさんの弟 拓也さん手記 異常さに怒り感じる 「親切なれた」結果は同僚外交 山口八重子さん＝拉致当時(22)＝の兄、飯 塚新雄さん(65) 蓮池薫さんの兄、透さん(49) 相田めぐみさんの父、滋さん(71) 増元のみずさん＝同(24)＝の弟、照明さん (48) 増元さんの姉、平野フミ子さん(54) 有本さきさん＝同(23)＝の父、明弘さん (75) 有本さんの母、嘉代子さん(78) 市川修一さん＝同(23)＝の兄、健一さん (59) 市川さんの義理の姉、簡子さん(58) 松木薫さん＝同(26)＝の弟、松木信宏(31) 識者談話 総代記「満朝」首相は完敗 関西大学の若菜和助教授の語 菅我さん 悲願な決意 家族5人帰国</p>	<p>30 「望むのは再会」 ジェンキンスさんおおいが本社取材に</p>	<p>28 「拉致」に怒り不満 ひそかに期待「最悪」 相田さん 「なぜ首相、にこやかに」 有本さん 「ゼロの評価」 松木さんの兄 いつまで待てば 「2人生存確認」とテロ朝悪報し謝罪 小浜市などで本社号外配布 再会の喜び控えめ 地村、蓮池さん夫妻 菅我さん思いやり 抱きしめ「もう大丈夫」 希望を口に 蓮池さん、地村さん会見要旨</p>	<p>29 「望むのは再会」 ジェンキンスさんおおいが本社取材に</p>	<p>30 「望むのは再会」 ジェンキンスさんおおいが本社取材に</p>	<p>・怒る ・欺瞞 権る手のぬくもり</p>	<p>10 首相訪朝 財界から一臂努力求める声 「死じ」「不届」とされた10人の再調査 不審点どこまで 調査団と食い違い証言も 子どもたちの帰国後の人生、自分たちの境遇 重ね共感できる 関西在日コリアンの思い ・ドキュメント ・拉致被害者5人の会見 ・家族会などの会見</p>	<p>8 首相訪朝 緊急座談会 及第と第3の境界 小此木 ・全体評価 ・拉致 両朝査 内容に注目 武見 安塚の誤傳 力不足 森本 ・核、ミサイル いつまで待てば 「拉致」重い課題現す 北朝鮮の核開発問題 日朝首脳会議 評価と課題 「核」打開なお見えず</p>	<p>9 日朝首脳会議 評価と課題 「核」打開なお見えず 6.96</p>	<p>21 「望むのは再会」 ジェンキンスさんおおいが本社取材に</p>	<p>35 拉致家族5人帰国 「一歩前進」「解決はと遠く」 「救う会」全国協議会副会長の黒坂真・大 阪桂百人助教授(43)の語</p>	<p>日朝首脳会議 (要旨) ・百原発言・日朝平壌宣言 ・拉致問題 ・核、ミサイル問題 ・在日朝鮮人問題 ・人道支援 ・日朝国交正常化交渉 小泉首相 記者会見の内容</p>	<p>日朝首脳会議に関する北朝鮮報道 (要旨) 首相訪朝 緊急座談会 及第と第3の境界 小此木 ・全体評価 ・拉致 両朝査 内容に注目 武見 安塚の誤傳 力不足 森本 ・核、ミサイル いつまで待てば 「拉致」重い課題現す 北朝鮮の核開発問題 日朝首脳会議 評価と課題 「核」打開なお見えず</p>	<p>8 首相訪朝 緊急座談会 及第と第3の境界 小此木 ・全体評価 ・拉致 両朝査 内容に注目 武見 安塚の誤傳 力不足 森本 ・核、ミサイル いつまで待てば 「拉致」重い課題現す 北朝鮮の核開発問題 日朝首脳会議 評価と課題 「核」打開なお見えず</p>	<p>9 日朝首脳会議 評価と課題 「核」打開なお見えず 6.96</p>	<p>21 「望むのは再会」 ジェンキンスさんおおいが本社取材に</p>	<p>35 拉致家族5人帰国 「一歩前進」「解決はと遠く」 「救う会」全国協議会副会長の黒坂真・大 阪桂百人助教授(43)の語</p>
--	---	---	--	--	---	--	--	---------------------------------	--	---	---	--	---	--	--	---	---	--	---

<p>「新しい出発の日」 残った親2人に気遣い 渡の再会 家族に突進戻る 地村さん 「きゅっと抱き締めた」 蓮池さん 「嫉はきれいになった」 この日を待っていた 友人ら歓声 儼かに見守っていく</p>						<p>304 1 小島朋樹「評面」67% 人道支援「反対」61% 本社緊急世論調査 内閣支持率上昇54%</p>
						<p>1 蓮池さん一家帰郷 新生活へ 「現代」「克也」名前伝える 北「親のいる日本へ行け」 北さん意見</p>
						<p>1 内閣支持率急伸58% 62%が日朝会談「評面」 本社世論調査 国交正常化</p>
<p>・定住外国人の帰化問題に取り組み在日韓国人の徐能達、植山学院大名誉教授 (71) の話 救う会大阪 語気強め 成果なし ・慣りを隠せず ・有難儀な会談 長岡ケア 5人支援 拉致被害者地元 狛智など日常知識から カウンセリング態勢整える ・福井 ・新潟 時間かけ見守って 「歓迎」のハンゲル 小浜市 日本国領は取得済み [2人生存] テレ朝新聞 「父親にそっくりだ」 関係者喜びと喜劇 「手放しでは…」 家族会「拉致の結果」 政府への怒り噴出 不明10人進展なし 首相「批判甘んじて…」 号外に急い入る Jリ大坂駅前など 拉致被害者から質問聞く準備 警察庁、10人再調査で 「驚引き不安 一層募る」 「残念だが帰国待って」 特定支援者の支援、支援者 準備不足否めない ・吉田順彦・大阪経済法科大教授 (現代アジア論) の語 孤立させないで ・「在日を生かす」意味を問い続ける詩人、金時鐘さん (75) の語 親子再会 抱きしめ 5人帰国 地村さん「もう大丈夫」 蓮池さん「嬉しきれいに」 編織さうどんたんへ提案 テレビゲームに熱中 地村さん一家 智我さん「泣き会える」 地村さん・蓮池阿夫班 【誓ひ会いたかった】</p>	<p>36 1.05</p>	<p>38 0.32</p>				<p>1 4.35 1.96</p>

505	1	31	<p>都内で街頭演説 「福み木が明れた」 瀬田さん芸楽新曲で講演 隣々と受け入れ準備 福井県など</p> <p>1.8</p> <p>「おやじの過去は？」「後でいいよ」 水入らず戸惑いも</p> <p>29</p> <p>開放視野に政策設計を 家族は一つかみじめ 地村さんまきょう帰郷 生活の不安も 瀬田さん一家</p> <p>1.36</p> <p>「総理と同じジェネズを飲んでいいの？」 当初は福岡住む 「待つしかない道は一本」 智我さん</p> <p>瀬田さん一問一答 「安否確認が条件」 ジェネズで調査 正常化交渉で瀬田官房長官 地村さん一家 小浜へ</p> <p>e-1</p> <p>地村さん帰郷 親子の離れ合い取扱先に 日本語担当員や3人に分けケア ・智我さん 「再会が生きたる目的」 ・相崎・瀬田さん 「お帰り」市役所に垂れ幕</p> <p>e-13</p>	<p>李氏 日本の海外交も活発に ・核開発問題 ・日朝の展望</p> <p>小此本氏 日本の後継に米朝期待</p> <p>李氏 開放視野に政策設計を</p>	<p>1.44</p> <p>0.3</p>	<p>・本通の電話 「頑張ったかいあいた」 地村さん祖父 3人と親しげに ・初対面 ・1年7か月間 ・将来 子供たち 笑顔と戸惑い 総理と同じジェネズでいいの？ 意思、日本語で「ああ、きれい」 若い顔め「新しい出発」 智我さん不安が現実 ジェネズさんと90代の母 日本で再会させたい 地村さん一家 午後帰郷 親子だんらん5人の食卓 娘にドライキーン 息子にパソコン 顔預りも決定 安否不明者 再調査へ北と早急協議 官房長官方針 正常化交渉再開前に確認 脱北22人、北京で協議か 備前に臨んで迎えたい 小浜市民入念に準備 地村さん一家帰郷 ・歓迎会 ・商店街 ・住民ら 報道関連番組、高視聴率 相崎でも垂れ幕</p>
	2	3	<p>小浜でゼロから出発 地村さん一家 瀬田さん 息子らに「拉致」告白 智我さん 瀬田さんと長崎面会要望 政府「週内に拉取り」 首相再訪朝「評価」68% 共同通信世論調査 拉致問題「未解決」84% 「朝敵不発動」 不明10人再調査 「互」の合同案 ・外交正常化交渉 再開に慎重論</p> <p>0.72</p>	<p>花東に突如こぼれ 地村さん一家 福井で新生活 安否不明10人 「再調査」月内協議を 実務者レベル 政府、北朝鮮に要求へ 日朝会談 食糧支援の主体トウモロコシに 金彩恵記が打ち切る 官房長官 「現状に答えた情報必要」 安否不明10人調査 正常化交渉の条件に</p>	<p>1</p> <p>1.6</p>	<p>地村さん一家 安らぎの新居 小浜再訪 智我さん 再会、月末にも北京で 政府方針 瀬田、数か月間の可能性 拉致者確保 拉致被害者の突破口に 智我さん一家北京で再会へ 引き渡し条約 考慮 政府 中国、米と未結核 ・面会 ・法的阻害</p>
	3		<p>花東に突如こぼれ 地村さん一家 友人らを取材トキメタリ制作 福井で新生活 安否不明10人 「再調査」月内協議を 実務者レベル 政府、北朝鮮に要求へ 日朝会談 食糧支援の主体トウモロコシに 金彩恵記が打ち切る 官房長官 「現状に答えた情報必要」 安否不明10人調査 正常化交渉の条件に</p>	<p>1</p> <p>1.6</p>	<p>地村さん一家 安らぎの新居 小浜再訪 智我さん 再会、月末にも北京で 政府方針 瀬田、数か月間の可能性 拉致者確保 拉致被害者の突破口に 智我さん一家北京で再会へ 引き渡し条約 考慮 政府 中国、米と未結核 ・面会 ・法的阻害</p>	

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(2)(木村・板村・池田)

・入港禁止法案 国会成立も	3	小泉首相の再訪朝 「落し穴」か「自国民の外交」か	1.28	特定不審者 拉致認定も 首相 日朝会談で可能性に言及 日本語教育など拉致被害者支援 国交交渉再開時期 不明10人申請差控り意見割れる
5	日朝首脳会談小泉首相報告 元首相ら、厳しい指摘 「粘り対応」「息をすき」 菅我さん一家の相談 時間かけて 講演で中山孝彦 国連の責任関係全面再見直し 日本の支援受け	4	10人再調査の期限設定要求 首相報告に与交部 自分の見解では果日無理 菅我さん悲願 シェンケンス氏の強い強要 首相が見通し 中曽根昭広五首相 米の引き渡し 遠泊で準備不足だ 不都合すべて無視 米の出方見えない	4
6	首相再訪朝 【北朝鮮、小出し取引】 アルファックス前米防衛次官補代理に聞く 【拉致】一歩一歩でも平和への道を 【拉致】支援は拉致の解決と同時に 小泉、山岡長があつんの訪朝	4	訪朝報告に与交部 菅我さん 希望捨てず強張って 頼みの世論に評面委ねる 心臓専門医院開設を準備 北朝鮮、金総書記の台座用か 平壤の地下鉄で火災、数人死亡 小泉首相訪朝の22日 北、完全な放棄案に反発 拉致問題、韓国も着手	0.21
26	発信源「赤アリ」 赤坂プリンスホテル 急な関係は「ここだけ」 「根っこ」 ・首相も常連	19	調査手法批判は的外れ 東洋大の久石泰彦教授(メディア倫理)の話 「当日夜に実施」は誤解 テレ朝修正へ 「情り、無念も伝わった」 【同行拒否】結果し批判を 疎かめた 蓮池さん 打ち明けた「拉致」	0.36
27	早野達 (本社コラムニスト)	0.25	26	0.15
29	拉致被害者の滞在先会議結果の説明場所	2.64	5	北朝鮮、イランへ圧力重う 首相訪朝の日 平壤地下鉄火災 3-5人死亡 家族の帰国一歩前進、「親」解決へ動機高め、「身代金」払いに等しい 日朝首脳会談 ・フレイバー・ニクシユ米議会調査団専門員 ・テイビッド・カンク・ターフマズ大学教授 ・ゴードン・フレック・マンズワイルド財団理事 【拉致】拉致被害者家族親子の感に感動 日本人として 交渉で再交再調査促せ 日朝首脳会談後 創設は「北」の対応次第 正常化交渉涉じ核問題も解決を
30	福田さん夫妻 ・会談への高評価「意外」 ・家族帰国「団結の成果」 ・「何てややこしい人生」	2.88	7	北朝鮮、イランへ圧力重う 首相訪朝の日 平壤地下鉄火災 3-5人死亡 家族の帰国一歩前進、「親」解決へ動機高め、「身代金」払いに等しい 日朝首脳会談 ・フレイバー・ニクシユ米議会調査団専門員 ・テイビッド・カンク・ターフマズ大学教授 ・ゴードン・フレック・マンズワイルド財団理事 【拉致】拉致被害者家族親子の感に感動 日本人として 交渉で再交再調査促せ 日朝首脳会談後 創設は「北」の対応次第 正常化交渉涉じ核問題も解決を
31	菅我さん、周囲にもらす 心奪り返って 地村さん「名得らぬく」 すし・タイ めでたい活版 地村さん親子 拉致告白 胸詰り合う	31	14	【各ソナ】御味深そうに 【秋ノ会】に批判の声相次ぐ 会見での発言受け 親子の絆 ゼロからの始まり 地村さん 【はい】と答えるようになってから一日本名 公表 【種が日本人と理解】 菅我さんへ「励まし続け」 4人が日本語学ぶ 【各ソナ】気分転換に見せた 蓮池さん一家 通う習 命かな自信 【拉致】打ち明け 【拉致】打ち明け 【各ソナ】気分転換に見せた 蓮池さん一家 通う習 命かな自信 【拉致】打ち明け
e-1	菅我さん再会 北京が有力 北 外相「除根絶くなくない」 3人自立支援協議委設置へ	e-1	15	29
e-10	小泉首相の訪朝米報道官が評価	0.78	16.32	30
e-12	「不明者の情報伝えた」 地村さん、帰国時外務省に 家族に批判のメール 首相面会時発言めぐり 蓮池さん親子買い物楽しむ	e-9	31	31

<p>「安否不明」野党 論説へ 金継寄記「出迎え」批判 首相、外交辭礼と反論 国連事務総長菅原對話を歓迎 非論調査、訪朝を評価 小泉首相を甘やかすな 依継の朝 地村さん子供「店に行きたいな」 蓮池さん一家、露参り 届かなかった環線への手紙 綿田圭平「今える日信じて待つ」 「拉致被害者聴取証言」に 小野国家公安委員長</p>	<p>e-15</p>	<p>0.36</p>	<p>米国訪省高官 地村さん 不明者の「生存にかかわる情報」 政府に伝える 日本の大学へ編入可能 4人の子ども 文科省など支援要請 克也さん受け入れ新潟大など前向き 権井氏が軟骨検討委</p>	<p>e-10</p>	<p>米国の出迎え驚く？ 菅野さんおめでとうございます 地村さん ジェンキンス氏 米へ引き渡し 可能性大 信野長官 不明者の真相証明困難ではない 処遇、特別配慮要請へ 正骨化交渉で菅野長官 日朝首脳会談を米国訪省が評価 国連総長も歓迎 日朝首脳会談 伝説 1時間半と短いことに疑問 「関係までそんなこと言いな」 母の手料理辛く味付け</p>	<p>e-19</p>	<p>地村さん一家 親子ぐるみ 伊勢参りで交流 阿波志ら計画 化粧、服飾り… 子ども同士 心通わせて 子どもたち 古里の一夜ぐつすり 教育支援を通知 文科省、関係教委へ 拉致被害者聴取証言には求めず</p>	<p>e-1</p>	<p>地村さん</p>	<p>0.36</p>	<p>1</p>
--	-------------	-------------	--	-------------	--	-------------	---	------------	-------------	-------------	----------